

災害時のAIによる異常検知の導入

豪雨や豪雪等に伴う「災害発生時」は、土砂流出や降雪によるスタック車両などの交通障害を早期に発見することが、その後の被害を軽減するために重要です。現在はパトロールやCCTVカメラによる目視での確認が中心となっていますが、見落としやタイムラグが生じる場合があります。このため、CCTVカメラの整備拡大にあわせて、AIによる画像解析で、停止車両等を自動検知する「異常検知システム」の導入や、「越波検知システム」の本格導入に向けた試行を進めています。

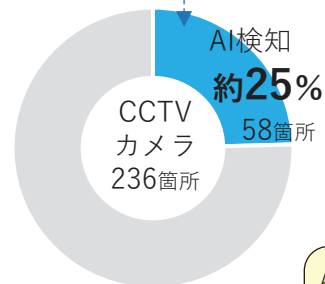
豪雪時のスタック車両の検知 (H30.12~)

【AI交通障害自動検知システム】



CCTVカメラ

AI



AI交通障害自動検知
システム導入率
(R7.3 福井河川国道事務所管内)



福井河川国道道路情報室

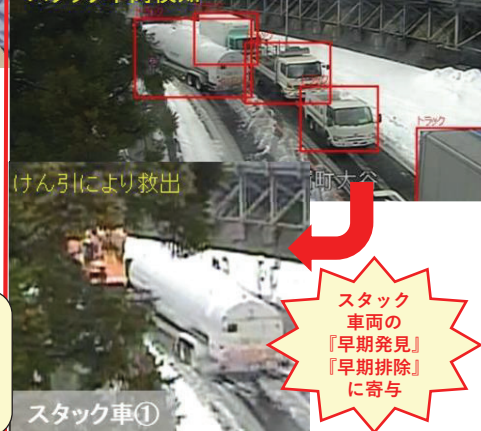
24台のCCTVモニターにより、管内236台の
CCTV映像を24時間監視。

事象発生の予兆等の検知時

対象画像を表示、パトライトで警報

大谷第3~4TN

スタック車両検知



AI検知活用により、
瞬時にスタック車両を検知
※監視員によるカメラ目視検知
より最大10分程度短縮

スタック車①

スタック
車両の
『早期発見』
『早期排除』
に寄与

異常検知の高度化



赤：波として認識 緑：車両として認識
灰：道路として認識

・自然事象に対する異常検知の高度化を推進していくため、令和5年度より、越波を対象としたAI検知の試行を始めました。

R6：AIによる越波監視を実施し、越波を感知した際は、情報提供を行う体制を構築
R7：システム試行導入